

### 土浦市民憲章

昭和50年12月23日制定

- 1. 互いに信じ 助けあう  
あたたかいころをそだてましょう
- 1. からだをきたえ 仕事にはげみ  
あかるい家庭を ぎずぎましょう
- 1. 自然を愛し 水とみどりの  
きれいなまちを つくりましょう
- 1. 知性を高め 教養をつちかい  
文化のみりを ひろげましょう
- 1. 伝統をふまえ 未来をみつめる  
若い力を のぼしまししょう

一中地区市民委員会

# 亀城

発行・編集者：一中地区市民委員会・文化広報部会 発行日：平成29年10月17日(火)  
 事務局：一中地区公民館内 TEL: 029-821-0104  
 世帯数 9,139戸 人口 20,227人 (平成29年9月1日現在)

## 小中一貫教育で生きる力を



一中地区市民委員会委員  
 土浦市立土浦第一中学校  
 校長 小祝 良信

土浦市においては、「個性を認め伸ばし合い、想像力豊かで、生きる力、人を思いやる心をもった児童生徒の育成」を目指しています。また、平成三十年度から、小中一貫教育が完全実施されます。生きる力の育成を目指し、これまでに土浦一中学区が取り組んできたことの一部を紹介します。

一つ目は、リーダーシップトレーニングです。これは各部活動・委員会・学級の代表生徒と土浦小学校と土浦第二小学校の代表児童が中央青年の家を会場に、話し合い活動を行うものです。小中合同での開催は本年度で三回目を迎えました。より良い学校生活のため、建設的で活発な話し合いが行われました。

二つ目は、「職場体験学習」です。働くことの意義を学ぶためのキャリア教育として、毎年中学二年生が夏休み中に実施しています。今年度は五十三もの事業所がご協力くださいました。お忙しい中ご支援くださっている地域のみなさまに感謝申し上げます。



三つ目は、土浦全国花火競技大会の翌日に行う小中合同クワーン作戦です。この活動は、土浦一中が平成三年から取り組んでいるもので、平成二十五年から小学校と合同で実施しています。児童生徒が河川敷に集合し、放置されたブルーシートや散乱したゴミを集めます。一時間程度の作業ですが桜川の河川敷は見違えるようにきれいになります。この取組の成果として、ここ数年はゴミも少なくなっているような印象もあります。地域の方に話を聞いたところ、「子どもたちがこれだけ地域のためにがんばっているのだから、地



域住民として、その日のうちに少しでもゴミを拾っておくよう周囲に呼びかけているのです。」とのことでした。地域のための活動が地域の方々の意識を高めることになったといえます。

学校、保護者、地域が一丸となって義務教育九年間を、目標を見据えた一貫性のある教育にしていきたいと考えています。そして、確かな学力と生きる力をしっかりと身に付けさせ、将来、地域に貢献できる社会人を育てていきたいと思えます。今後とも温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

## 穴塚大池と般若寺



穴塚町地区長

佐野 光男

### 《穴塚大池》

春には、桜の花が咲き、羽を休めていた多くの鳥たちが旅立っている。夏には、多くのトンボが水面を飛び交う。その種類はともども多く、昆虫の好きな方にはたまらない。少し、雑木林に入ると鳥の鳴き声とうるさいほどの蝉の声。多様な花が咲き、むせかえるほどの緑。池の水が、涼しさを感じさせてくれる。秋には、秋の顔を、冬には冬の顔を見せてくれる。動植物の宝庫であり、貴重な里山の風景を残す穴塚大池である。田に引く水を供給してくれ、私が幼かった頃には、雷魚を始め多くの魚がとれた大池。運がよければ、サシバ（鷹の一種）の飛び姿や、大木で休む精悍な姿を見ることが出来る。単に、自然豊かと片付けるには申し訳のないほど素晴らしいところである。穴塚町の誇れる大池であり、是非、訪れていただきたいところでもある。

### 《竜王山釈迦院般若寺》

寺伝では、平安時代（九四七年）に平将門の孫の安寿姫が尼寺として開基したとされ、初めは、大池近くの台地上にあったとされ、平安末期には現在地に移されたとの伝承がある。



る。鎌倉時代には律宗寺院として、五重塔のある立派な寺院として栄えたという。戦国時代に、戦乱により二度にわたり焼き討ちを受け、残念ながら、古書財宝はことごとく焼失したとされる。

それでも、現在、国指定重要文化財である鎌倉大仏を造った名工丹治久友作の「銅鐘（日本三梵鐘の一つ）」はじめ県指定文化財の結界石、石造五輪塔が、そして、本堂には釈迦如来立像等が、他にも市指定文化財である仏像も多く残されている。現在の住職にお願いすれば、きっと快くこれらのいわれについて丁寧に説明案内して下さるはずである。歴史に興味のある方は、是非訪れてい



だきたい。

現在穴塚町には、二三三世帯（内アパート一〇七世帯）の方々が生活している。新旧住民の交流の場となるべき穴塚小学校も、今は旧小学校跡地となったままである。今後の活用についても未だ決まらず、寂しい限りである。また、住民の高齢化が進み、耕作放棄地の増加も懸念される。

住民の力だけではどうすることもできない課題も多いが、知恵を出し合い、誇れる町穴塚をよりよい町にしていきたいと考えている。



## 市民委員会 専門部の活動

### 本年度の安全部の事業計画



安全部  
部長 吉村 勇一

安全部は、交通安全思想の啓発・推進、防災・防犯運動を目的に活動しています。

#### ① 救急救命（AED）講習

毎年実施しております恒例のAED（自動体外式除細動器）の使用法を、土浦消防署の方々にご指導いただき実施しておりますので、一人でも多くの皆様方のご参加ご協力をお願いし、いざという時の人命救助に役立てれば幸いです。

#### ② 公民館まつりの協力参加（十一月十二日） 予定

一中地区公民館まつりは毎年各部会合同で行われる市民参加の楽しいイベントで、安全部は当日の駐車場や駐輪場の整理に協力して、ご来場をお待ちしております。

#### ③ 視察研修（十二月予定）

去年は、横浜防災センターにおきまして、地震・火災・水害を疑似体験し、災害の恐ろしさを感じ充分な事前対策の大切さを知らされました。今年も有意義な研修を計画実施する

予定ですので、多数のご参加を宜しくお願いいたします。  
④防犯運動の棒旗作成配布（三月予定）

こちらは毎年行っており、防犯の棒旗を百本作成し、各町内にお配りして、少しでも犯罪の抑止につながればと願っております。

以上が、安全部からの事業計画のご報告です。

### 広報紙「亀城」に思うこと

文化広報部  
部長 新井 幸男

昨年五月から文化広報部長として広報紙「亀城」の編集に携わってきました。

その間、編集委員の皆さんと意見を交わしながら、より親しまれ読まれる広報紙にしていこうと、文字を大きく・カラー刷りにとハード面で工夫をしてみました。ここにきて、ふと思うことは、広報紙「亀城」への投稿者は殆どが中高年者ではないのか、読まれる方達も面白くないとのイメージから幅広い年齢層の方達に読まれていないのではないかと思っています。

これからは年齢に拘らず、学生さんから高齢者まで幅を広げて投稿依頼し掲載することによって、その友人・知人が興味を持って読んで頂けるようソフト面でもひと工夫していくことが必要なのではと思っております。

そこで今号では中学一年生の知人の子供さんに協力依頼し「夏」をテーマに投稿して頂きました。

出来上がった広報紙を家族で読まれている姿を想像するだけでわくわくしてきます。

どこまで効果が出るかは不透明ですが、折角、年二回発行しているのですから、より多くの方達に親しまれ読んで頂けるような広報紙「亀城」になって欲しいと思っております。

### 「描くは楽し水彩画」

講師 北岡 萌恵

こんにちは。はじめまして「一中水彩画クラブ」です。本会は、平成二十八年度公民館講座を経て結成されました絵画同好会です。まだまだひよっこ会ですが、十五名みな心熱く活動しておりますので、どうぞお見知りおき下さい。

主な活動は、各々の画力向上のために技法を学び、より良い一作品を生み出すことですが、同好会の良さである「絵を描く楽しさを仲間と分かち合う」ことが会の柱です。

真剣な眼差しで画用紙に向かい、時に仲間の様子を伺っては励まし合おう。メリハリのきいたひとときが飽きさせない秘訣です。

絵を描くことは孤独な作業です。自分の気持ちを思う存分表す良さに対し、自分で満足も不出来も受け入

れなければなりません。でも、それらの苦労も、乗り越えた喜びも、共感し合える同志がいたならば・・・こんなに嬉しいことはありません。同好会が結成され、多くの仲間が出来ましたこと、本当に嬉しく思います。

これからも描くことを楽しみ、語らいを楽しみ、「良い時間を過ごせた」と思う同好会でありましょう・・・私、講師は皆さまの笑顔のために努めてまいります。

（恥ずかしながら、今回皆さまの推薦を頂き、講師筆でございます。写真は、高橋会長が腕を振るって下さいました。ありがとうございます）  
一中水彩画クラブは、第二・第四



木曜日の午後一時半から三時半まで活動を行っております。静物・風景・人物と、様々な題材を用いて水彩表現を学んでおります。「見る」から「描く」にチャレンジしたい方、より発展したい方、絵の楽しさ広がる一中水彩画クラブにお越し下さい。

### 「つちうら健考の会」

講師 吉良 親

当会「つちうら健考の会（健康について考える会）」は土浦市のヘルスサポーター21事業の卒業生を中心に、平成22年4月から活動を開始し8年目になります。

会員の7割が男性で、現役時代は「男子厨房に入らず」だったメンバーが殆んど。実習経験を積み包丁さばきから腕を磨いています。

「会のモットー」は『自分の健康は自分でまもる』です。土浦市健康増進課（保健センター）の管理栄養士さんの出前講話や指導を得て、減塩など健康に配慮した料理実習・そば打ち講習会など、会員同士が要望を出し合い、楽しみながら健康づくりを実践しています。

東日本大震災直後は新たな試みとして、「非常時の食事を考える」をテーマに、災害救助炊飯袋を使っての炊飯の講習も行いました。会員は普段から健康を気遣い研究



熱心でテレビや雑誌で紹介されたレシピを持ち寄り、健康増進課へ希望やコンセプトを提出しカロリーや栄養バランスをチェックして頂きそのアドバイスの下、新メニューを考案しています。

健康を話題にしたおしゃべりや情報交換も、楽しみの一つです。平成25年には、「シニアふるさと通信」の取材を受け、「8月Vol.6」に「いきいきマイルライフ。調理実習や講習を通じて健康づくり」『つちうら健者(けんこう)の会』で紹介されました。

平成29年度実施計画は、  
・5月 総会及び年間の事業計画の決定、及び調理実習の実施。

・7月 健康増進課の「出前講座」『おいしく減塩・多様な食品摂取のすすめ』及び調理実習の実施。  
・10月は、同好会特徴の「そば打ち講習会」及び、「高齢者交通安全講習会」。

・12月は、「移動研修会」。  
・平成30年2月は「スクエアステップ運動」及び調理実習の実施を予定しています。

尚、同好会の趣旨及び、年間実施日等は、公民館掲示板に掲示してあります。

末筆になりましたが、会の活動等に、公民館の方々にはいつもお世話になり有難うございます。今後とも宜しくお願い申し上げます。又、当会は市・健康増進課(保健センター)管理栄養士さんの専門的且つ丁寧なご指導により成り立っているとも言えます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

### みんなの広場

#### 夏のお祭り

桜町二丁目  
中一水橋 一颯

僕の夏の楽しみはお祭りです。土浦のお祭りは、八坂神社のお祭りとして毎年七月下旬に行われています。

色々調べてみると、土浦の八坂神社のお祭りは、江戸時代ごろから約

三〇〇年以上の歴史があって、今まで続いているとのこと。有名な資料として江戸時代の「祭礼絵巻」が土浦市立博物館に展示されていて、その当時の様子が絵とか文字で記録されています。

江戸時代までは土浦のほかに真鍋、虫掛、常名、殿里の町も神社の氏子でしたが、明治時代になって分かれ、今は土浦市内の一九町内が氏子となっていることです。

八坂神社は今は真鍋台にあります。お祭りの期間だけ御飯屋として町の中心に移されます。

お祭りには、お獅子の屋台・山車屋台が市内を練り歩きますが、昭和二十一年には、戦争が終わったのを記念して全町内が参加したこともあり伝統あるお祭りとのこと。

僕のお父さんが子供の頃の昭和五十三年にも十一町内の山車・屋台が参加してにぎやかなお祭りであったと聞いています。



僕の住んでいる桜町二丁目のお祭りは、僕のおじいちゃんが若い頃は、芸者さんが屋台に乗ってお囃子をやり練り歩いたそう。今は大分違います。今は、お囃子会が各町内に出来て、四年ごとの当番の年に、桜町一、二、三、四丁目の各町内がお獅子や、山車、屋台を出して参加しています。僕のお父さんも子供の頃からお囃子会に入って、屋台の上でひよっとこの踊りをして参加しています。

ただ、僕がお祭りを見るようになった子供の頃は、参加する人も見に来ている人も多く、にぎやかなお祭りであったように記憶しています。今は参加している子供も少なくなってきたり少しさみしい気がしてなりません。

夏のお祭りは僕は大好きです。これからも以前のようににぎやかなお祭りになって欲しいと思います。

#### 祇園町

蓮河原新町  
山本 雅生

「トントン」ピーヒョロロ

子供たちが紅白の綱を引き、今年も土浦キララ祭りの山車巡行が始まりました。我が町内の獅子屋台も大和町から亀城公園方面に向かい発進。還暦を当に過ぎた私の身体だが、祭囃子にはすぐに反応してしまふ。

巡行路の中央に設けられた祭り本

部のテントを過ぎたころ、ビルの解体現場が右手に見えてきた。駅前通りと裏の通りに挟まれた『旧祇園町』に残っていた最後の建物の一つを取り壊している。

昔、土浦に『祇園町』という町名があった。町名変更で消えてなくなりそんな粋な町名が存在したことさえ知らない若い市民が多くなっているようだが、モール505西端の武蔵屋さんの交差点から、保立食堂さんの交差点までの、土浦で一番小さな町が確かに存在していた。その『旧祇園町』もビルの解体が全て終わると、すべて公園になってしまうそうだ。祇園町で生まれ育ち、高校生まで過ごした私のルーツが消滅してしまう・・・寂しい！

祇園町は商売人の町で仲見世通りや駅前通りに、果物屋・まんじゅう屋・下駄屋・帽子屋・雑貨屋等々、すべてが商いを営む町。小さな店がアーケードで軒を連ね、七夕祭りでの小網屋さんのステージショーや当番町の山車引きなど、土浦の中心の町（私はそう思っている）だった。町の大きさは全長300m程で幅は広いところで20mといったところか。所帯数は40戸くらいだったか？ それでも、私の小学校同学年の幼なじみは、私も含め3人いた。よく遊び、楽しかった！

私が小学5年生の時だったと思うが、続いていた土浦の山車お祭りが、突然（お祭りを楽しみにしていた当

時の私にとっては突然）取りやめになった。当時の大人のやむにやまれぬ事情だったのだと思う。なんと理不尽な！

あつという間にキララ祭りの山車が中城町の交差点まで到着した。私を育ててくれた祇園町の通りは、なんと短い道のりか。

土浦の祭りはその後復活し、こうして還暦過ぎでも楽しめるようになってくれた。『祇園町』も何らかの形で市民の記憶に残っていてくれると嬉しい！



▲ 祇園町祭風景

出典「むかしの写真・土浦」

### 一中地区市民委員会主催

## 歴史探訪の旅



▲ 大相撲9月場所観戦

◀ 柴又帝釈天(題経寺)



- ・百日紅散り初めて人待ちにけり
- ・花吹雪己に勝てと云われけり
- ・竹林に夏の別れを知りにけり
- ・下闇を雄鶏よぎる瑞巖寺
- ・遊女塚声あげて読むいわし雲
- ・乗客の無き扉の開いて神無月
- ・みどり児の後湯に入りし十三夜
- ・凍る田に驚みて母の忌なりけり
- ・桜見て雪見て旅の終わりけり
- ・病めば病む人と親しく水仙花
- ・肌寒くあつけらかんと友近きぬ
- ・防犯灯墓にもありて凍て月夜
- ・初雪や一輪の花凜として
- ・四階の病室より
- ・短日や白と黒との富士見たり
- ・病む夫へねんごろに剥く青みかん

「人生は出会いのドラマ」と申しますが、一中地区市民委員会のある一中地区公民館は、元は平本内科医院でした。市に寄贈して牛久の作家住井すすさんのお隣に転居しました。

その平本先生は内科の医者であり「平本くらら」という俳人で尊敬する恩師でした。

## 短歌・俳句

からす瓜ざくろ柿の実色づきて

季節移ろう湖岸のまち

田中一丁目 井上 寛江

言いたりぬ思いのごとき海鳴が

闇夜にざんげの九十九里浜

生田町 金丸 玉貴

からみ合う蔓と蔓とをほどくとき

ブルーの朝顔しずかに笑まう

中央一丁目 櫻井 雅江

山霧に姿消された筑波山

気配残して万葉の山

大 町 齋藤 順子

五能線の無人の駅舎に朝露の

こぼるる路を友は購ふ

大和町 瀬古澤和子

秋が来てまた会えたねと紅葉の葉

頬をなでられ山は燃えゆく

生田町 桑田今日子

さわさわとわたり来る風さわさわと

われを呼ぶ声さわさわとして

東崎町 荒木富美子

訪ねればいつもの席に母がおり

少し出ましょか手つなぎ散歩

虫掛町 柴沼 恭子

縁側の残暑で寛ぐ猫ちぐら

虫掛町 柴沼 恭子

## 編集後記

土浦全国花火競技大会も終わり、本格的な秋を迎え、紅葉観賞へと皆さまお出掛けになるのではないのでしょうか。

また、十一月十二日(日)には、「一中地区公民館まつり」が開催されますのでご家族でひとときを楽しんではいかがでしょうか。

さて、今号も大勢の皆さまに寄稿頂きまして、編集委員一同心より感謝申し上げます。(本号の編集担当者)

- 新井 幸男 / 田中久美子
- 岡部 恒文 / 進士 武之
- 梅木 逸夫 / 小野村一博
- 横山 光栄 / 加藤 節子
- 桜井 昌子 / 山本 敦子